



令和4年8月3日

## 次期「トビタテ！留学 JAPAN」の実施についてお知らせします

官民協働で日本の若者の海外留学を促進するキャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN（以下トビタテ）」は、当初 2020 年度までの予定で 2013 年秋にスタート。その後、コロナ禍の影響から 2022 年度まで延長して運営しておりました。

この度、新たなビジョンを掲げ、**2023 年度から 2027 年度までの 5 年間、次期トビタテを実施することとしました。**

文部科学省では、意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す機運を醸成することを目的として、2013 年度から社会総がかりで日本の若者の海外留学を後押しする「トビタテ！留学 JAPAN」を推進し、多くの企業・団体等からのご支援・ご協力により、幅広い国・地域への留学を実現してきました。

上昇基調にあった日本人大学生の留学数は 2020 年度に前年度比 98%減となるなど、新型コロナウイルスにより大きな影響を受けました。そのような中、本年 5 月に取りまとめられた「教育未来創造会議 第一次提言」、6 月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針 2022」において、若者の海外留学促進の観点からトビタテの発展的推進が明記されました。さらに、文部科学省は 7 月 26 日「高等教育を軸としたグローバル政策の方向性～コロナ禍で激減した学生交流の回復に向けて～」において、**コロナ禍で落ち込んだ留学数を 2027 年度までに少なくともコロナ前の水準に回復することを目指し、産学官あげてのグローバル人材育成の取り組みを強化する方針**を発表しました。

この度、この方針の実現に向けて、新たなビジョンを掲げ、**2023 年度から 2027 年度までの 5 年間、官民協働オールジャパンで、次期トビタテを実施することとしました。**

### 柱の 3 事業を通じ、オールジャパンで留学を促進し、グローバル人材を輩出

次期トビタテにおいては、新たなビジョン「日本の若者が世界に挑み、“本音と本気”で国内外の人々と協働し、創造と変革を起こす社会」及び、コンセプト「Challenge, Connect, Co-creation」を掲げました。主に下記の 3 事業に取り組むことで、コロナ禍で激減した日本人留学生数をコロナ前の水準にいち早く回復することを目指し留学機運の再醸成に努め、**新たな“グローバルリーダー”、社会に対してインパクトを生む人材を輩出**してまいります。（詳細は、別添資料参照）

■「**新・日本代表プログラム**」…民間寄附による留学支援制度「日本代表プログラム」後継事業として、「自ら社会に変革を起こしていくグローバルリーダー」（大学）や「社会（地域）にイノベーションを起こすグローバル探究リーダー」（高校）を育成する新たなプログラムをスタート。より若い時期からの海外経験を将来の留学につなげるため、高校段階からの留学の機運醸成・支援を強化する。

■「**留学プラットフォーム**」…留学支援の取組を可視化することでより多くの主体が支援に取り組む状況を目指し、留学支援者相互及び留学希望者との架け橋を築き、トビタテが持っているノウハウを提供することにより、関係者のネットワークを活用した留学機運醸成を図る。

■「**価値イノベーション人材ネットワーク**」…多様な海外体験をした人材の成長を加速する組織やセクターを越えたネットワークを築き、トビタテコミュニティの更なる活性化を図り、国内外の多様なステークホルダーとの協働を促進。

## これまでの成果と集大成の動画や次期トビタテ事業概要の紹介

新たな門出に当たり、これまでの成果や多彩なトビタテ生の声などの集大成と、次期のビジョンを示す動画を、公式 YouTube に公開しました。また、トビタテ公式 HP の次期トビタテのビジョン紹介ページ内に、上記の動画のリンク、上記の次期トビタテの事業概要などを詳しく紹介しております。ぜひ併せてご覧ください。



## 原資となる寄附募集活動を強化

2022年4月末現在、トビタテに対し、260社・団体、個人の皆様より約123億円の御寄附をいただいております。2022年度は、次期への準備と並行し、現在留学中、準備中の派遣留学生等の支援を継続します。

そして、**2023年度から2027年度までの次期トビタテにおいて高校生、大学生5,000名以上の留学支援の原資として寄附の募集を強化**するため、官と民がこれまで以上に連携・協力し、**より多くの企業・地方自治体の参画を促進**いたします。次期トビタテにおいても、引き続きオールジャパンで若者の留学を応援し、日本のグローバル人材育成を更に力強く推進してまいります。

**【取材のお問い合わせ】**

官民協働海外留学創出プロジェクトチーム

○文部科学省 高等教育国際戦略プロジェクトチーム 電話：03-5253-4111（内線 3360、2059）

○日本学生支援機構 グローバル人材育成部

広報担当

電話：03-5253-4111（内線：3627）

次期トビタテ「新・日本代表プログラム」担当

電話：03-5253-4111（内線：4938）

次期トビタテ「留学プラットフォーム」担当

電話：03-5253-4111（内線：4934）

次期トビタテ「価値イノベーション人材ネットワーク」

電話：03-5253-4111（内線：3625）

トビタテへの御寄附について

電話：03-5253-4111（内線：4923）

## 別添資料：次期トビタテのビジョン・コンセプト・取り組む三事業について

### ビジョン

日本の若者が世界に挑み、  
“本音と本気”で国内外の人々と協働し、  
創造と変革を起こす社会

### コンセプト

Challenge, Connect, Co-creation



- Challenge:** 若者の海外への挑戦をオールジャパンで応援する。
- Connect:** トビタテ生同士を繋げ、多様な若者が繋がるコミュニティを形成する。  
トビタテ生が海外のネットワークと繋がる。  
トビタテコミュニティと志を同じくするステークホルダーを繋げる。
- Co-creation:** 協働して次期事業を創り上げ、留学機運を再醸成する。  
協働プロジェクトを創出し、社会に創造と変革を起こす。  
価値イノベーション人材のロールモデルを輩出する。

### 次期トビタテのビジョンと取り組む三事業の概要

留学機運の再醸成	
留学者数の回復	ロールモデルの輩出
<p>2027年度未だに達成すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により激減した留学生数を、少なくともコロナ前の水準にいち早く回復させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな“グローバルリーダー”5,000名の輩出</li> <li>・社会に対してインパクトを生む人材2,000名の輩出</li> </ul>
<p>2028年度以降もレガシーとして継続する仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次期トビタテの成果も踏まえ、各自治体や各高等学校等を主体とする特色ある留学支援制度の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションを生み出すトビタテ生のコミュニティを活性化し続けるエコシステム</li> </ul>
成果のエビデンスと発信	
各事業の概要	<p>② 留学プラットフォーム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業界、自治体、学校等による既存の留学支援の取り組みを可視化</li> <li>・留学奨学金制度や留学プログラム、留学啓発機会に全国のより多くの主体（特に自治体、高校、大学）が積極的に取り組む状態を目指す</li> </ul>
	<p>① 新・日本代表プログラム 新たな“グローバルリーダー” 5,000名の輩出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の未来を創るグローバルリーダー像と留学を通じた人材育成のアップデートする</li> <li>・大学：「自ら社会に変革を起こしていくグローバルリーダー」の輩出</li> <li>・高校：「社会(地域)にイノベーションを起こすグローバル探究リーダー」の輩出</li> <li>・高等学校段階からグローバル人材育成に取り組む留学モデル拠点地域を全国に構築</li> <li>・採用人数：大学生1,000名～ 高校生4,000名～</li> </ul>
	<p>③ 価値イノベーション人材ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トビタテコミュニティの更なる活性化と国内外の多様なステークホルダーとの協働の促進</li> <li>・価値イノベーション人材の輩出</li> <li>・価値イノベーション人材2,000名</li> <li>・国内外の協働組織25団体</li> </ul>

※上記3事業を独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）において実施

**ビジョン**：日本の若者が世界に挑み、“本音と本気”で国内外の人々と協働し、創造と変革を起こす社会  
**コンセプト**：Challenge, Connect, Co-creation